

家庭

家庭科の内容の「A 家族・家庭生活」から「C 消費生活・環境」までの各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年については、児童や学校、地域の実態等を考慮し、各学校において適切な授業時数を配当するとともに、2 学年間を見通して履修学年や指導内容を適切に配列します。

家庭科の授業づくりのポイント

- 2 学年間を見通した指導計画の作成・見直し
- 育成する資質・能力を明確にした題材の構成及び学習過程の工夫

2 学年間を見通した指導計画の作成・見直し

各学校において、学習指導要領及び解説に基づき、児童の実態に応じて年間指導計画の作成、見直しを行うことが大切です。なお、**A(1)のア**は、第4 学年までの各教科等の学習を踏まえ、2 学年間の学習の見直しをもたせるためのガイダンスとして、第5 学年の最初に履修させるようにします。

〔指導計画の例〕

	4 月～7 月	8 月～12 月	1 月～3 月			
5 年	ガイダンス ゆでる調理でおいしく食べよう	A (1) ア B (1) ア (2) アイ	使ってみよう ミシン 作って食べよう ごはんのみそ汁	B (5) アイ B (1) ア (2) アイ (3) ア	考えてみよう 物やお金の使い方 快適な衣服の着方 冬の住まいを工夫しよう	C (1) アイ (2) ア B (4) アイ B (6) アイ C (2) ア
	はじめてのソーイング	B (5) アイ	B (2)及びB (5)については、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、学習が無理なく効果的に進められるよう2 学年間にわたって扱います。	タイム	A (3) アイ	
	整理・整頓で住みやすく	B (6) アイ C (2) ア				
	できるよ 家庭の仕事	A (2) アイ				
	6 年	生活時間を振り返ろう	A (2) ア (3) ア	ソーイングで生活を豊かに こんだてを工夫して	B (5) アイ B (1) アイ B (2) アイ B (3) アイ	生活の課題と実践 地域の人と協力しよう 持続可能な社会に向けて 2 年間の学習を中学校につなげよう
今日の食事にトライ		B (2) アイ (3) ア	生活の課題と実践	A (4) ア	A (4)「家族・家庭生活についての課題と実践」は、家庭や地域などで実践を行い、課題を解決する力を養う項目です。実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮し、2 学年間で一つ又は二つの課題を設定します。	
そうじで快適に		B (6) アイ C (2) ア				
大事にしよう 衣服の手入れ		B (4) アイ C (2) ア				
すずしい住まい方で快適に		B (6) アイ C (2) ア				

育成する資質・能力を明確にした題材の構成及び学習過程の工夫

題材の構成に当たっては、育成する資質・能力を明確にし、関連する内容の組合せを工夫したり、学習過程との関連を図ったりする必要があります。特に「生活の中から問題を見だし課題を設定する」場面を確実に設定することが重要です。

学習過程の参考例

生活の中から問題を見だし課題を設定する

知識及び技能を習得し、解決方法を検討する

解決の見通しをもち、計画を立てる

知識及び技能を活用して課題解決に向けた実践活動を行う

実践した結果を評価・発表し、改善策を検討する

生活



〔手立ての例〕

家族へのインタビュー

事例の検討

イメージマップの作成

ポイントをキーワードで整理

児童が問題を見だし、見出した問題を課題設定につなげたりするためには、授業者が、様々な手立てを意図的に講じる必要があります。

児童が **問題**を見だし**課題**を設定する



Check!

題材の指導計画の充実については、これまでの手引にも掲載しています。